

令和 2 年度 第 2 回 新庄市総合教育会議会議録

開催月日	令和 3 年 2 月 19 日 (金)
開催場所	新庄市役所 301・302 会議室
出席者	市長、高野博教育長、栗田正人委員、阿部浩悦委員、斉藤浩昭委員、奥山京子委員
欠席者	なし
事務局	武田信也教育次長兼教育総務課長、高橋昭一学校教育課長、渡辺政紀社会教育課長 東海林主幹、伊藤主幹、小関教育総務主査、鈴木教育総務主査、佐藤主事
議 事 の 大 要	

午後 3 時 50 分より、市長のあいさつで、総合教育会議を開会する。

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 協議

教育大綱の策定について

(市長) 教育大綱の策定について説明をお願いします。

(教育次長兼教育総務課長) 現在の教育大綱につきましては、平成 27 年 10 月 3 日の総合教育会議におきまして、第 4 次新庄市振興計画(新庄市まちづくり総合計画)の教育部門をもって新庄市の教育大綱に代えることと決定されています。この第 4 次新庄市振興計画につきましては、今年度までの 10 年間で計画期間となっております。市では来年度から 10 年間で計画期間といたします第 5 次新庄市総合計画の策定作業を進めていたところであり、基本構想、基本計画の策定をもって 3 月に最終的に実施計画までの策定が完了することとなります。これを受けまして、教育大綱につきましても第 5 次総合計画の教育部門の部分をご確認いただきながら、改めて第 5 次総合計画の教育部門をもって新庄市教育大綱に代えることと決定していただければと考えております。なお、お手元の資料については第 5 次総合計画の教育部門の抜粋となります。これに基づいて、その内容をご説明申し上げたいと思います。その後、各課の思いというところがございまして、新庄市第 5 次総合計画のスタートするこの数年間でどこに力を入れていきたいかということも含めて、各課長からお話をさせていただきたいと考えております。

○第 5 次総合計画の教育部門について、資料に沿って総括説明。

(教育次長兼教育総務課長) 教育総務課といたしましては、今後力を入れていかなければならないところは教育大綱の 5 ページになります。この前に、明倫学園の建設をしっかりとやっていくという部分はございしますが、それ以外の部分では③登下校の安全安心の確保というところで、スクールバスの運行や山交バス等の民間の公共交通機関を使う場合の子ども達の助成等に力を入れていきたいと考えております。また、②学校施設の整備・充実の部分では、学校の照明、特に体育館の LED 化

と特別教室へのエアコン設置ということで、この辺に力を入れながら準備を進めていければと考えております。

(学校教育課長) 学校教育課といたしましては、資料 1 ページ目になりますが「社会を主体的に生き抜く力を育む」の①心の教育の充実、特にいのちの教育の推進ということ、今後も重視していきたいと思っております。全校で、いのちの教育に年間を通して取り組んでいくということを考えております。もう一つ②生きる力を育む学力の育成ということでは、さまざまな取組を載せていますが、これらすべて重要だと思っております。理由としましては、新学習指導要領の実施に伴い、意欲がある児童生徒を育てるために ICT と多様な対応で個に応じた指導をしていく必要があると考えております。タブレットの利用は現在も行っていますが課題解決の授業や習熟のあり方など様々な可能性がありますので、これについては重点として取り組んでいきたいと考えております。また、本市の英語に対する課題もございますので、英語スーパーバイザーと併せて、今後も外国語・国際理解教育には力を入れていきます。②の最後に学校図書館とありますが、メディアの活用につきましては、図書館に人がいる環境をこれからも継続しながら、学校司書を中心に連携していきます。2 点目は給食です。大きくはここには書いていませんが、毎日安全な給食を提供するということが、これだけで大きな成果だと考えております。いろいろな方に支えられて提供できておりますので、これまでもまたこれまで以上に力を入れていきたいと思っております。課題は異物混入やアレルギー対応、給食費、天候や機械等のトラブルがありますが、日常的に取り組んで参ります。併せて、補助金を活用しながら地産地消など食育に取り組んでいくこと、自分から健康について関心を持つ子どもを育てていきたいと考えております。3 点目は特別支援教育です。本市では個別学習指導員等 24 名を配置しておりますが、この活用についてこれからも重視して参ります。併せて特別支援については、就学前の配慮を要する子ども達についての早い段階でのアプローチということでは、まだ課題がありますので来年度以降力を入れていきたいと思っております。4 点目は小中一貫教育ですが、これまで義務教育学校の萩野学園の成果を発信してきましたが、明倫学園がスタートしますので義務教育学校ならではの特色を生かして実践し、今まで以上に効果を上げていかないといけないと思っております。この 2 校を中心として、他の学校も同じようにキャリア教育のプログラムを作っていくとか総合の学習を充実させるなどの形で、全校に広げていきたいと思っております。併せてふるさと学習の充実ということで、学区を中心とした地域の素材を扱い、各学区で教育課程の工夫をした学習に力を入れていきたいと考えております。5 点目としましては資料の 5 ページになります。ここに安定した学年・学級経営の充実とありますが、いじめ・不登校の未然防止については言葉としてはここに出てきておりませんが、命を守るということについては最大限の力を注いで参りたいと思っております。まちづくりの計画にもありますが、学校に居場所があるということは必然であります。いじめや不登校を限りなく 0 にしていくために、いろいろ取り組んで参ります。

(社会教育課長) 社会教育課は 6 ページ目からでございます。社会教育といたしましては、基本的に、まちづくりは人づくりということで、社会教育課の基本姿勢としては人づくりの部分に力を入れていきたいと考えております。特に 7 ページの②青少年教育の推進では、これからの新庄市を作っていただく青少年の人材育成が重要であると考えております。これにつきましては、青少年だけでなく、高萩の児童交流や子ども芸術学校、青少年育成推進委員などの活動によって、子ども達を大人と触れ合わせ、人とのつながりや市の良さを学ぶ場を設けております。中学生を中心に中学生ボ

ランティア、高校生ボランティアなどに繋がっていくということで、若年層からのボランティア体験等を中心に、今新庄で活躍している人と関わる場所を提供することができないかと考えているところです。ふるさと新庄を知る場、体験学習の場としての機会を設けていきたいと考えています。特に青少年の中でも、若年層に女性の方々が活躍できる場を併せて創設することはできないかと考えているところです。もう1点でございますが、8ページに文化芸術の振興の中で①伝統文化の継承とふるさと意識の醸成がございますけれども、「新庄市の歴史や文化を知る機会の増加」ということでは、戸沢政盛公の新庄城入城400年記念事業を令和7年度に実施する予定でございます。その中で、来年度から5年間かけて新庄城に入るまでのきっかけに基づき毎年ひとつひとつイベントをしかけながら、新庄は城下町であるということ子ども達に意識づける、新庄まつりなどの根源については戸沢家があって始まったという戸沢家とのかかわりを紹介しながら、子ども達のふるさと意識を醸成していきたいと考えております。戸沢政盛公が入城してから廃藩置県の命によるまで250年、11代にわたって治めていただいたこともあって今の新庄が作られてきているということ子ども達や市民の方々に意識づけていきたいと思っております。また、スポーツにつきましては、体を動かすことが苦手であるという子ども達に対して、体を動かすことの楽しさを知るきっかけ作りが出来ないかと考えています。また、高齢者の余暇を楽しむきっかけ作りということについても、力を入れていきたいと思っております。社会教育課については人づくりと戸沢氏によるふるさと意識の醸成、スポーツについては体を動かすきっかけ作りということでのスポーツ施策に取り組んでいきたいと考えているところです。

(市長) 各課より第5次総合計画の中で今後特に取り組まなければならないことを具体的に伝えていただきました。委員の皆様から教育部門についてのご意見をいただきたいと思っております。

(栗田委員) 大変よくまとめられていると思います。2ページ目の「各校における創意ある教育活動の充実」というところでは、2つの義務教育学校には教科教室が整備されていますのでしっかり活用する、あるいは小中の先生方が一体となって義務教育学校の学びを創造するという面で教科担任制なども導入されており、環境を生かした経営をしていくことが大事になってくると思います。日本は恵まれた教育施設を持っているところは少ないわけですので、活用も日々念頭に置いていくべきかと思っております。参考資料にある重点プロジェクトの第3章2ページで「若年者の社会流入」とありますが、どちらかという社会流出ではないかと思っております。全体的には、教育を受けて育った子ども達をどのようにしてこの地に呼び戻すかということが一番大事なのかと思われました。そういう点では、教育現場の中で子ども達に示す継続的な取組が必要だと思われました。学校では企業を招き、地域の企業がどのような活動をしているのかを勉強する機会を設けたりしているので、もっと広がると良いと思います。それから、地域の事業所に子ども達が出かけて行って学ぶ機会がもっとあると良いとも思いました。地域に戻ってきたいという意欲をもっている子ども達がたくさんおりますので、その子ども達がしっかりと戻れる施策であると思われました。計画にはそのような点が記載されており、良いと思われました。

(斉藤委員) 少子高齢化で人口が減少していく中、若い人達が流出しそのまま帰ってこないという背景があり、私も実感しています。重点プロジェクトの中に「若者や子どもであふれるまちプロジェクト」があり、郷土愛の醸成が私たちに課せられたテーマと話がありました。今年は実施されません

でしたが、市の小中学校 PTA と市長との語る会の中で「どうしたら子ども達が新庄に戻ってくるか」を毎年テーマに話してきたところです。そこで新庄まつりという話もありまして、子ども達は新庄まつりの時には帰ってくる、何が帰ってくる動機となるのかという話になりますが、思い出として残っていることや、小さい時に新庄の良さを体験させてあげられていることだと思えます。以前は、本合海であれば最上川や八向楯といった自然の中で、冷たい水に触るとか木に登るといった体験をしましたが、今の子ども達はしていないのかと思えます。あえて体験させていくことが大切だと思います。保護者の協力もすごく大切で、親が子ども達に良いところを教えることが郷土愛につながると思えます。地元でとれた野菜などの食材を調理し、食べさせることも郷土愛につながると思えます。身の回りに良いものがたくさんあることを気づかずに食べたり過ごしていることを、親や先生が教える機会を作っていただいて子ども達に伝えていくことが大切と考えます。並行しまして、GIGA スクール構想が進んでいますが、ICT を活用した授業の中で得意な子とそうでない子が出てきてしまった時に個別に指導したり、これを使うことでメリットがあることを教えていくことが大切だと思います。そういった両輪で支えていくお手伝いをしていかなければいけないと感じたところです。

(奥山委員) 地域に残るということを考えると、昔の青年団のような組織がなくなってきているので、中高生にモデルとなるような方たちとの接する機会や場所を多く持つていくことで、ああいう人になりたいという気持ちが育てば少しは変わってくるのかなと思えました。生涯を通じての学びということでは、高齢者などは集中して行うよりも分散し出向いていく活動になれば良いと思えました。参考資料の重点プロジェクト 2 ページ「市民が健康で元気なまち」に、高齢者の生きがい創出や多様な活躍とあります。いろいろなところで役立ちたいと思う人はいても、自分で事業を起こすことは難しいので、お手伝いならできるという方はいると思えます。マッチングできれば、お手伝いしてくれる人はいるのではないかと思います。マッチングという方法は広報だけでは一方通行で広がらないと思えます。もう一つは、いろいろな箇所で、「家庭との連携を大切に」とありますが、家庭というのはとてもプライベートな側面があるので、学校でも機関でも踏み込めないところもあるのではないかと思います。広報だけでは改善しづらく、何か手を打たないと変わらないと考えます。

(阿部委員) 各課長が説明されたとおりになれば、素晴らしい新庄市の教育の場ができるはずなので、ぜひこの計画どおりに行ってほしいと考えます。GIGA スクール構想も避けては通れないことだと思います。今朝も孫がくるなりタブレットと言います。このような時代なのかなと。天気のいい日は必ず公園に連れて行ったりしますが、10 年後、この孫が中学生になった時のことを地域の人間として考えていかなければならないと思っています。先ほど青年団の話がありましたが、消防団と商店街とお祭り若連は同じメンバーです。そこに子ども達がどんな憧れを持って入ってくるかを考えなければなりません。若い人達が入ることによって、子ども達も入ってくるのではないかと思います。もう一つは、商店街の話ですが、新庄駅の開業とともに南北商店街ができ、新しい時代に即して宿屋ができたそうです。また、道の駅構想において、まゆの郷近辺になりまして、私は向こうにまちができるのであれば、駅の開業でまちを創った方と同じように「新しく創業しようよ」という方が増えてほしいと思っています。新しく商売を始めようという人々、若者が流入してくれる魅力あるまちづくりが大事だと思っています。まゆの郷は歴史ある建物であり、皆さんか

ら誇れるまちであるところを我々がアピールしなければいけないと思っていますし、観光面でも使えると思っています。そして、そこを担う若い人を育てなければならない。その手法がコミュニティスクールだと思います。義務教育学校について、各地に行って勉強もさせてもらいましたが、これこそ新庄に必要だと思いました。次の小中一貫校は新庄中学区だと思っています。新庄市の中心にある学校として新庄中 0B の皆さんは自負を持っているので、その方々がコミュニティスクールで活躍できる場を与えていただけたらと思います。

(教育長) 新庄市の教育を考えると「命」は外せないと思っています。2つ目は、新庄の教育の特色は、小中一貫の義務教育学校であり2校目が開校するところで、教科教室や教科担任制など特色を生かした教育をしていかなければならないと思っています。そして次の小中一貫校の進め方を事業化していくことを含めて考えていかなければならないと思っています。また、来年度からは先生方の研修に力を入れていきたいと思っています。3つ目は協働です。コーディネートしてくれる人がいないという話もありましたが、人をつけるなど予算化しないとイケないと考えます。人については、生活に余裕のある人でないとできないので、その辺も事業として考えていかなければいけないと思っています。4つ目は将来の夢を実現するためには学力をつけないとイケない。現在の手立ての中ではスーパーバイザーがあり、他では公営塾もあります。子ども達の目標となるテストにお金をかけてはと考えています。大学入試に TOEIC などを使うこともあり、英検や数検に挑戦させる予算をつけても良いのかと模索もしましたが、現在は NRT が良いという現場の声を優先しています。子ども達には意欲や目的意識を持たせないとイケないと思っております。また、先ほど町内会や若連の若手が入ってこないというお話がありましたが、その層を育てるという事業を意識的にしていかなければならないと思っています。例えばハーフマラソンに親子で参加するとか企業で参加するなど、人を巻き込む事業にならないかと思っています。協働を行うためには、親御さんにもっと知ってもらう仕組みが必要と感じています。

(市長) 人口減少の中で、今後の学校教育がどういう方向に進まなければいけないかということが大きな課題と考えています。課題はわかっているわけなので、高学歴社会で高校を卒業した若者が新庄に戻ってこれる仕組みをつくりたいと思っています。今後、明倫学園の建設が終わった後の新庄の子ども達がどれだけいるのか。私が市長になってから、年々10人ずつ出生数が減っています。婚活や子育てなど手立てをしていても抑えきれない現状です。今回のコロナで大学生に現金2万円を渡したら、反響が大きく喜ばれました。人口減少の中で、「嘆く」のではなく「輝いている」ことがあっていいと思っています。新庄を離れた方も自慢の故郷だということがあっていいと思いますし、住んでいる方々は嘆かないことが大事だと思っています。そして、地域での集団教育がなくなっていると皆感じているのかなと思っています。これに代わるものがコミュニティスクールだと思います。リーダーを育てるのには時間がかかるので、コミュニティスクールに関わる方も長く続いてほしいと思います。若連とか消防団は歴史があり保とうと改革もしているはずで、継続しているのはすごいことです。新庄の素晴らしいところは若連と消防団が一緒になっているところだと思っています。これから GIGA スクールが入ってきた時に、スピード感というか情報過多になっていく中で自らを失うことなくどう生きていくか。学校の先生も大変な時代になっていきますが、地域の中では児童交流の体験の場を大人とさせていきたいと思っています。ジモト大学との連携も大事だと思いますし、図書館など頑張っているところは強化していきたい。地域研究所の発表会で、地元を離れる

前に地域の大人との触れ合いが大切ということからジモト大学は始まりましたが、この取組は私もとても大事だと思っています。最後は新庄に守るものがあるか、自分が守らなければならないものがあるかが、新庄に帰る強い動機の1つになるのだと思います。そのあたりを言葉の使い方で、意識づけしていきたいと考えています。他にありませんか。

(阿部委員) 競技スポーツが強くないと地元に残らないのではないのでしょうか。手立てがあっていいと思います。

(市長) 確かに強いところに子どもは行きたいですね。新庄の高校でも柔道やバドミントンが強いといったところがありますので、ぜひ情報提供してほしいです。それでは、第5次総合計画の教育部門を教育大綱に充てるということによろしいでしょうか。

(各委員及び教育長) 異議なし。

(市長) 本市の次期教育大綱については、現教育大綱の策定経過や第5次総合計画の内容を踏まえ、第5次総合計画の教育部門を充てることとさせていただきます。

4. その他

特になし

5. 閉会

午後5時10分閉会する。